

スポーツ選手の語りや活躍から元気と哲学をもらう事が多い。ある大学の監督が長く続けている素晴らしい選手には「挫折と愛がある」と言っていた。挫折があってもこれが好きだという愛で乗り越えて、その後の活躍が本物になるという。一流と呼ばれる選手は大抵その道を通ってきて、その上で実践を重ねて得た理論だから説得力を持つのだろう。

春から毎週3日ほど森北君が土いじりにやってきて、お互いの芸術観を吐露しながら制作して過ごした。過去にくじけそうな時が何度もあったが、美術・描く事・作る事が好きで今までやってこられたという共通点があり、アートと生活の距離感が似ていると思った。齢を重ね、好きなものを通して出来た縁で人間関係が広がり、また制作も楽しめている。一流選手の挫折と愛ほどではないが、この気持ちを大事にし続けるアートを表す言葉はないだろうかという話になった。

森北君に以前から「スモールアート」という言葉を聞いており、気になっていた。愛知県芸術彫刻科を卒業して初の展覧会をした白土舎の土崎さんが提唱した考え方が面白い。好きで作品を作り、好きでギャラリーを始め、好きで作品を購入する。例え、小さな経済であろうと、好きであるという共感が存在する世界のことだと僕は解釈している。国際的にはアートとマーケットがリンクしているアートワールドがアートビジネスを動かし、美術史を作っている。しかし、そこを目指さず、アートに関わり続けたい者もいるだろう。アートワールドに入るかはわからないかは結果であり、それよりも初源的な気持ちを持続し、何があっても愉しみたい。森北君はそれをTiny worksと呼んでいると思う。

今展では焼物と異素材を合わせた彫刻、絵画、シルクスクリーンの小品など様々なものが出品される。初心に戻ることはとても難しいが、思い出しながら先を見つめることは可能である。そんな展覧会になると確信している。

「土から生える」シリーズについて

2008年に行われた美濃を舞台にしたアートプロジェクト「土から生える」ジャンルを超えた作家と美濃らしいそれぞれの場との出会いにより生まれた素晴らしい展示であった。14年経た今、その評価が高まっており統編計画の動きもある。主宰の一人という立場でもあり、この秋から春にかけ、百草で開催する当時の参加作家三氏の展覧会にこのサブタイトルを付けた。新しいプロジェクトに向けてバトンを繋ぎ走るとするという意味でも。

オープニングイベント

9.10 sat 14:00-17:00

やきとりしんちゃん (投げ銭制)

カマドブリュワリーのクラフトビール

ミモザの日

9.10 sat, 11 sun 11:00-

削り氷: 初秋の味覚の自家製シロップかき氷

ワークショップ 人形を粘土で作り、野焼きしよう

A. 制作

9.11 sun 14:00-15:30

持ち物 エプロン・タオル

B. 野焼き

9.25 sun 8:00-17:00

持ち物 作業着・タオル

参加費 3,000円 (AかBどちらかのみ参加 2,000円)

Bのみ参加の方は、乾燥させた作品を8時までに持ち込んでください。予約はホームページをご覧ください。

schedule

9.29 thu- 10.3 mon 常設展 火・水休廊

9.30 fri 盆栽ワークショップ

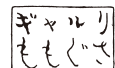
10.4 tue- 10.7 fri 展示替えのため休廊

10.8 sat- 10.23 sun 土から生える 2 伊藤慶二展

momogusa cafe

森北伸展 ライトランチメニュー

11:00-18:00 (L.O 17:30) メニュー・席の予約不可



〒507-0013 岐阜県多治見市東栄町2-8-16

tel. & fax. 0572 21 3368

https://www.momogusa.jp

多治見ICより車で10分 / JR多治見駅北口よりタクシー12分
(JR多治見駅より東鉄バス13分「高田口」下車1km)



特設ページ



土から生える 1

Tiny Works—森北伸

2022. 9. 10 sat - 25 sun

11:00 - 18:00 9.14 wed, 9.20 tue 休廊

森北伸 ————— 在廊日: 9.10 sat, 11 sun, 25 sun

オープニングイベント、ワークショップに関しては背面をご参照ください。

galerie
momogusa

百草

Tiny Works

森北 伸

安藤さんのご好意により、百草工房での作陶を始めたのが5月の初旬頃、暇を見つけては好きに工房に入り土いじりをした。すぐ隣では安藤さんが作陶をしているので緊張し、初めは遠慮がちに手捻りなど小さなものから始めたが、少しずつ少しずつ環境に慣れていき制作を楽しんだ。

制作は成り行きばかりで一生涯懸命やるしかないのも何も言うことがないのだけど、休憩がてらの安藤さんとの会話、また工房に置いてある器や彫刻や絵の画集を見たり、工房スタッフの仕事ぶりを見学するなど、何気無い時間が自身の勉強となり新鮮で豊かな時間を過ごしたと思う。

初めての百草での展示は2015年の「In My Life」普段ホワイトキューブの空間に慣れたばかりには住空間の展示がとても新鮮で楽しかったし、美術に対する考え方に多様性を持つきっかけにもなった。今回は「Tiny Works」というタイトルを付けた。そこには自分自身に対する色々な思いがあるのだけど、いつもと変わらず楽しく自由にやれば良いと思っている。

森北 伸

1969年 愛知県名古屋生まれ。

幼少時にクロード・モネの画集に感銘し、美術を意識する。

現在 岐阜県多治見市を拠点として、彫刻・絵画を制作・発表をしている。

